

平成25年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業（実践）各学校の優れた事例紹介 【実践事例レポート】


- 1 報告地区 : 後 志
- 2 事例報告学校名 : 倶知安町立西小学校
- 3 報告者職・氏名 : 校長 打矢 和美
- 4 キーワード : 「心に輝きを持ち、学び合い、高め合う子ども」の育成

1 はじめに

「東洋のサンモリッツ」倶知安町は、後志地区中央部に位置し、秀峰羊蹄やニセコ連山、清流尻別川を望む美しい景観に恵まれた町です。

本校は、昭和62年に開校し、本校の分校として樺山分校が設置されています。どの教室からも羊蹄山が一望でき、雄大な自然環境の中で、子どもたちはのびのびと学校生活を過ごしています。開校27年目、全校児童202名、学級数10学級（含特別支援学級3学級）の編成となっており、国際色豊かな子どもたちです。





学校教育目標
◎進んで学ぶ子(やる気) ◎仲良く助け合う子(和気) ◎明るくたくましい子(元気)

重点目標
『基礎・基本を身に付け、自分の考えを持ち、意欲的に学び続ける子』

研究主題
「心に輝きを持ち、学び合い、高め合う子どもの育成」

2 豊かな心の育成を目指した道徳教育の推進（概要）

本校では、道徳教育を学級経営の要として位置付け、道徳教育及び道徳の時間の充実を図るために、全ての学級で校内研究授業や参観日の公開授業を行ってきました。昨年度は北海道道徳教育推進校の指定を受け、心のノートの有効的な活用や道徳教育推進週間の設定、全教育活動と道徳教育のつながりを意識した授業づくりを中心に以下のような取組を行ってきました。

(1) 道徳教育推進教師を中心とした校内体制による推進

本校では、学校経営方針に基づいて「豊かな心の育成プラン」を策定しています。道徳教育推進教師はこのプランのもと、道徳教育推進計画を立案し、道徳教育推進委員会が中心となって、それぞれの役割を明確にするとともに、学校教育全体の道徳教育の推進に取り組んでいます。



道徳教育推進週間

道徳教育推進週間では、校内的に道徳的な取組を強化。7月の推進期間中には、全校道徳参観日を実施し、全体会で取組の概要を学級懇談では詳細を説明し、保護者の理解を得ています。



児童会活動

「笑顔でふれ合う西小学校」をテーマに各委員会が活動しています。写真は体育委員会主催の「大縄跳び」。休み時間には自然に異学年交流の場が生まれ、笑顔が溢れています。



縦割り班活動

本校の特徴的な教育活動の一つ縦割り班活動。給食・清掃・運動会・西小祭り等子どもたちが主体的に行事を運営し、豊かな触れ合いが生まれています。写真は縦割り班給食。



校務分掌との連携

推進期間中は、校内掲示も重点的に行い意識付けを図っています。写真は、図書係の「命・絆」に関する図書展示。気軽に手にとって読める環境づくりを心がけています。

(2) 他教科・他領域との関連を図った指導計画の作成

本校では、各学年毎の重点目標達成に向け、学習指導要領が求めている内容項目に加え、子どもの実態を鑑みて必要と思われる重点内容項目を設定しています。これらを「道徳教育全体計画」の中にも位置付けるとともに、他教科・他領域との関連についても明確にする「道徳教育全体計画別葉」も作成しました。また、重点とした内容項目については時間数を増やし年間計画を作成しています。

なお、道徳教育の根幹となる「3-(1)生命尊重」については、すべての内容項目に繋がる最も重要な内容項目であることから全学年で重点としています。

【各学年の道徳教育重点目標】（全体計画より一部抜粋）

学 年	重点目標	重点内容項目
1 年	基本的な生活習慣を身に付け、きまりを守って仲よく遊ぶ。	1-(1)節度節制 2-(1)礼儀 2-(3)信頼友情 3-(1)生命尊重
2 年	善悪の判断を身に付け、友だちと仲良く助け合う。	1-(3)思慮 2-(2)思いやり 2-(3)信頼友情 3-(1)生命尊重
3 年	きまりを守り、よく考えて友だちと協力し、助け合う。	1-(1)節度節制 2-(3)信頼友情 3-(1)生命尊重 4-(1)公德心
4 年	自分の目標に向けて努力し、仲間と協力し、集団の一員として判断し行動する。	1-(1)節度節制 2-(3)信頼友情 3-(1)生命尊重 4-(1)責任役割
5 年	相手の立場を理解し、自分の役割と責任を理解して目標に向け、集団の一員として行動する。	1-(1)節度節制 2-(3)信頼友情 3-(1)生命尊重 4-(1)責任役割
6 年	相手を尊重し、集団や社会の一員としての自覚を持ち目標に向けて努力する。	1-(1)節度節制 2-(3)信頼友情 3-(1)生命尊重 4-(4)勤労奉仕

道徳教育の重点目標をもとに、重点とする内容項目を設定

(3) 道徳の時間との関連を図った体験活動の重視

子どもたちは日常的な学習の中で多くの道徳的体験をしています。本校では道徳の時間において、それらの体験を補充・深化・統合することで道徳性は培われていくと考え体験活動を重視しています。教科や領域の特性を踏まえながら、「道徳の時間のための体験活動」「体験活動のための道徳の時間」とならないように、それぞれの特性・指導内容を踏まえ、意図的・計画的に取り組んでいます。



総合的な学習の時間
「百年の森 マスターになろう」
倶知安町にある自然の森「百年の森」を散策し、そこにある動植物について調べまとめる。

実践例：3年生
総合的な学習の時間と道徳の時間を関連づける

道徳「ふるさと大好き」
4-(5)郷土愛
ふるさとは誰もが愛するすばらしいところがあることに気づき、大切にしようとする心情を育む。

総合的な学習の時間
「倶知安町の自然(山)」
倶知安町を囲む山について学び、イワオヌプリ登山を体験して地域の自然の豊かさを調べまとめる。



(4) 道徳の時間における効果的な資料提示・活用

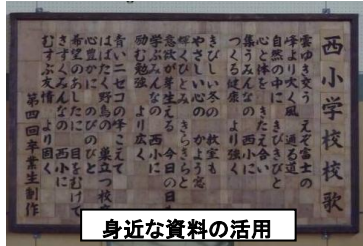
子どもが道徳的価値を内面に自覚し、主体的に道徳的実践力を身に付けていくためには、子どもの心を揺さぶり、心が豊かになり、道徳的実践へとつながっていくための道徳の時間であることが大切です。その一つに本校では、子どもに興味や関心をもたせる資料提示の工夫や子どもの考えを湧き出させる効果的な資料の活用に取り組んでいます。



余韻を残す補助教材



紙芝居やペープサート



身近な資料の活用



視聴覚教材の活用

(5) 言語活動を中心とした授業展開の工夫

道徳の時間においては「書く」と「話す」ことを重視しています。「書く」ことで子どもが道徳的価値について思考を深め、「話す」ことで互いの考えを理解し、認め合いながら道徳的価値をさらに深めていくこととなります。そのために、中心発問に対する自分の考えをワークシートに書き、それをもとに話し合い活動が展開されるよう授業を構築しています。

言語活動を豊かにし、道徳的価値を深めるためには中心発問が重要となります。子どもに葛藤を与える発問の工夫とそこから引き出される子ども同士の考えを繋いだり、まとめたりする教師のコーディネート力の向上に努めています。また、「心のノート」の活用については、導入や終末において効果的な読み聞かせや記述によって道徳的価値への関心を高めたり、余韻をもたせたりしています。

3 おわりに

道徳教育は即効性を期待するものではありませんが、子どもたちに道徳教育のねらいが着実に身につく、日常的な言動となって表れることを心から願っています。「心に輝きを持ち、学び合い、高め合う子ども」は主体的な学びと子ども同士の関わりの中でこそ育成されます。子どもたちが「共に学ぶ喜びや楽しさ」を日々実感できるよう、今後も研鑽に励む教師集団でありたいと思います。

